

プログラム

11/2 (SAT).

【世界のなかの日本の漫画・アニメーション】

日本時間 17:00-17:10 / フランス時間 9:00-9:10

開会あいさつ…久保 公二/KUBO Koji (国際センター所長)
…カトリーヌ・トロットマン/Catherine TRAUTMAN
(CEEJA所長/元フランス文化交通大臣)

日本時間 17:10-17:20 / フランス時間 9:10-9:20

開会に寄せて…内田 浩行/UCHIDA Hiroyuki
(在ストラスブール日本国総領事)
…井上 寿一/INOUE Toshikazu (学習院大学 教授)

日本時間 17:20-17:50 / フランス時間 9:20-9:50

講演① MANGAはどこから来たか —グローバル・ヒストリーの観点から
…佐々木 果/SASAKI Minoru(学習院大学 教授)

日本時間 17:50-18:20 / フランス時間 9:50-10:20

講演② 「マンガの翻訳」
…野田 謙介/NODA Kensuke (漫画研究者・翻訳者)

日本時間 18:20-18:50 / フランス時間 10:20-10:50

講演③ メディウムとフォーマット —マンガのスタイルを考える
…三輪 健太朗/MIWA Kentaro (東京大学大学院 准教授)

日本時間 18:50-19:20 / フランス時間 10:50-11:20

講演④ オウム真理教というフィクション
…アントナン・ベシュレール/Antonin BECHLER
(日仏会館・フランス国立日本研究所 研究員)

日本時間 19:30-20:00 / フランス時間 11:30-12:00

パネルディスカッション

…〈モデレーター〉イラン・グエン/Ilan NGUYEN(MEMA学術専門委員)
…〈コメンテーター〉夏目 房之介/NATSUME Fusanosuke
(元学習院大学 教授)

日本時間 20:00 / フランス時間 12:00

閉会

11/3 (SUN).

【日本の大衆文化とジェンダー】

日本時間 17:00-17:30 / フランス時間 9:00-9:30

講演① 手塚と宝塚、あるいはディズニー

—都市中産階級の成立と漫画・アニメーションにおけるジェンダー—
… 岡田 尚文/OKADA Naobumi(学習院大学 非常勤講師)

日本時間 17:30-18:00 / フランス時間 9:30-10:00

講演② 「少女」とメディア —少女漫画の源流を辿って

… 大多和 朋子/OTAWA Tomoko
(同済大学外国語学院 特別招聘講師)

日本時間 18:00-18:30 / フランス時間 10:00-10:30

講演③ 『CLANNAD』から考える

—オタク文化における「男性のまなざし」と「内面」
…ジュリアン・ブヴァール/Julien BOUVARD(リヨン第三大学 准教授)

日本時間 18:30-19:00 / フランス時間 10:30-11:00

講演④ 漫画におけるジェンダーの翻訳 —クィア的な視点

…ブランシュ・ドゥラボード/ Blanche DELABORDE
(福岡大学 非常勤講師、翻訳家)

日本時間 19:10-19:40 / フランス時間 11:10-11:40

パネルディスカッション

… 〈モデレーター〉 レギーネ・マティアス/Regine MATHIAS
(アルザス・欧州日本学研究所 研究部門副所長)
… 〈コメンテーター〉 夏目 房之介/NATSUME Fusanosuke
(元学習院大学 教授)

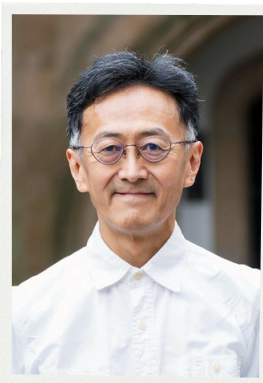
日本時間 19:40 / フランス時間 11:40

閉会あいさつ …柳本 大地/YANAMOTO Daichi
(学習院大学 国際センター 准教授)

日本時間 20:00 / フランス時間 12:00

閉会

登壇者略歴



佐々木 果 (SASAKI Minoru)

・マンガ編集者。学習院大学大学院人文科学研究科身体表象文化学専攻・教授。マンガ研究、視覚文化史。
・著書『まんが史の基礎問題——ホガース、テプフェールから手塚治虫へ (Foundations for a History of Manga: From Hogarth and Töpffer to Tezuka)』(オフィスヘリア、2012年)、『まんがはどこから来たか』(オフィスヘリア、2009年)、『〈美少女〉の現代史——萌えとキャラクター』(ササキバラ・ゴウ名義、講談社、2004年)、『それがVガンダムだ』(ササキバラ・ゴウ名義、銀河出版、2003年)、『コンタックスはいかにしてキエフとなったか (Contax to Kiev: A report on the mutation)』(オフィスヘリア、2000年)。マンガ研究サイト「M studies: Forum of Comics Studies」(<http://mstudies.org>)を運営。



野田 謙介 (NODA Kensuke)

・マンガ研究者・翻訳者。学習院大学大学院人文科学研究科身体表象文化学専攻博士後期課程在籍。
専門領域は日仏米を中心としたマンガ理論と歴史の比較研究。
・主要業績：「コマ割りは「何を」割っているのか」(『ユリイカ』[第40巻第7号、青土社、2008年] 所収)、「マンガにおけるフレームの複数性と同時性について：コマと時間をめぐる試論 (1)」(『マンガを「見る」という体験』[水声社、2014年] 所収)、「とあるMの定義と起源」(『ユリイカ』[第45巻第3号、青土社、2013年] 所収)。
・主要訳書：ティエリ・グルンステン『マンガのシステム』(青土社、2009年)、エマニュエル・ギベール『アランの戦争：アラン・イングラム・コープの回想録』(国書刊行会、2011年)。



三輪 健太郎 (MIWA Kentaro)

・東京大学大学院総合文化研究科准教授、学習院大学非常勤講師。
マンガ論、表象文化学専攻。
・主要業績：『マンガと映画—コマと時間の理論』(単著、NTT出版、2014年)、『マンガメディア文化論—フレームを越えて生きる方法』(共著、水声社、2022年)、『映画論の冒険者たち』(共著、東京大学出版会、2021年)、『マンガ／漫画／MANGA—人文学の視点から』(共著、神戸大学出版会、2020年)、「楳図かずお論—変容と一回性」(論文、『文學界』[76巻4号、2022年4月] 所収)、「マンガ、近代のエフェメラーあるいはルイス・キャロルの二つの時計」(論文、『新潮』[112巻6号、2015年5月] 所収)、『映像が動き出すとき—写真・映画・アニメーションのアルケオロジー』(共訳、トム・ガニング著、みすず書房、2021年) など。



アントナン ベシュレール (Antonin BECHLER)

東京日仏会館・フランス国立日本研究所 (Umifre 19 フランス外務省・国立科学研究センター) 研究員、ストラスブール大学日本文学准教授。文学博士、日本文学専攻。日本現代文学及びサブカルチャーを研究テーマにして、著作に『大江健三郎あるいは暴力の経済』(PUS、2015) の他、『大江健三郎選集』(ガリマール社、2016) を編集。同巻収録の短編「奇妙な仕事」、「セヴンティーン第二部・政治少年死す」他を翻訳。石田仁志と『文化表象としての村上春樹 - 世界のハルキの読み方』(青弓社、2020) を編集。



岡田尚文 (OKADA Naobumi)

・学習院大学、慶應義塾大学ほか非常勤講師、学習院大学国際センターPD共同研究員。フランス中世史、表象文化学専攻。
・主要業績：『円卓—古希の堀越孝一を囲む弟子たちの歴史エッセイ集』(共著、東洋書林、2006年)、『騎士道百科図鑑』(共訳、悠書館、2010年)、『映画のなかの社会／社会のなかの映画』(共著、ミネルヴァ書房、2011年)、「蒸気機関車イメージの変容、あるいはショックの馴致について—ディズニー映画『リラクタント・ドラゴン』(1941年)を手掛りに」(論文、『学習院大学文学部研究年報』[64号、2017年3月]所収)、『映画で味わう中世ヨーロッパ—歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』(共著、ミネルヴァ書房、2024年)、『映画と空間』(共著、ミネルヴァ書房、近刊) などがある。



大多和 朋子 (OTAWA Tomoko)

・同済大学外国語学院特別招聘講師(上海)。日本文化史・女性史専攻。韓国大邱、中国杭州、上海等の大学で日本史・日本文化の教育、研究に従事。
・主要業績：「遊行女婦考—日本古代における遊女の一起源の研究—」(論文、『人文科学論集』第7号所収、学習院大学人文科学研究科編、1998年)、「檜垣・白女考—平安時代前期における遊女像—」(論文、『日本律令制の展開』所収、吉川弘文館、2003年)、「『遊女』の誕生—『昌泰元年歳次戊午競狩記』と九世紀の文人貴族」(論文、『東アジア海をめぐる交流の歴史的展開』所収、東方書店、2010年)、「朝鮮王朝妓生の管理体系とその流出の様相」(翻訳、原著禹仁秀、『東洋文化研究』第九号所収、学習院大学東洋文化研究所編、2007年) など。



ジュリアン・ブヴァール (Julien BOUVARD)

・2006から2009年まで山梨大学、そして立命館大学に講師として勤務。2011年よりフランス国リヨン第3大学にて日本語学科准教授。
・主要業績：『Japon pluriel - Arts graphiques et culture visuelle au Japon』(共著、Picquier出版、2019年)、「Turning the Page: Reading Manga in the Pandemic Age」(論文、『The Coronavirus Pandemic in Japanese Literature and Popular Culture』、Routledge、2023)、「Cachez cette case que je ne saurais voir - Le manga pornographique et la censure dans le Japon du XXIe siècle」(論文、『Tactiques d'expression à l'ombre de la censure - A l'ombre de la censure II』、L'Harmattan、2023年) などがある。「L'eldorado insaisissable : le traitement du Japon dans la presse vidéoludique française de la première moitié des années 1990」(論文、『Lire les magazines de jeux vidéo - Couverture(s) de la presse spécialisée française』、Presses universitaires de Liège、2022) などがある。



ブランシュ・ドゥラボード (Blanche DELABORDE)

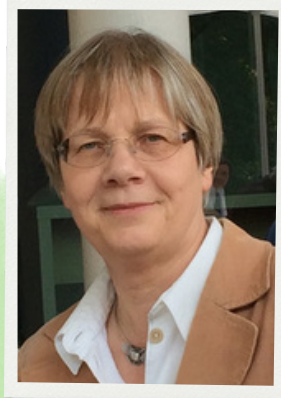
- ・福岡大学非常勤講師、マンガ翻訳者。マンガ表現学、表象文化学専攻。
- ・主要業績：『Taiyo Matsumoto : Dessiner l' enfance』(共著、9eArt+ éditions - Festival International de la Bande Dessinée、2019年)、『Poétique des impressifs graphiques dans les mangas』(INALCO博士論文、2019年)、「Hearing Manga」(章、『The Cambridge Companion to Manga and Anime』、2024年)、「Le blanc dans les mises en page multicouches des mangas」(論文、『Espaces du blanc : Concepts et pratiques』、Hémisphères、2024年) などがある。



【モデレーター】

イラン・グエン (Ilan NGUYEN)

- ・フランス国立東洋言語文化学院(INALCO)ほか非常勤講師、ヨーロッパマンガ・アニメ博物館(MEMA)学術専門委員。日本語、漫画・アニメーション史専攻。
- ・主要業績：雑誌編集などでマンガ・アニメーション論を日本語・仏語で執筆(1995年～)。パリでの「日本の新しき映像」(1999、2001、2003年)をはじめ、国内外の数多くの映画祭のプログラム・コーディネートを担当(1999年～)。映像作品(高畑勲、川本喜八郎、山村浩二作品など)やマンガ(宮崎駿、谷口ジロー、坂口尚作品など)の翻訳多数。『Le Cinéma d' animation en 100 films』(共著、Capricci、2016年)、『日仏アニメーションの文化論』(共著、水声社、2017年)、『Michael Dudok de Wit, le cinéma d'animation sensible』(共著、Capricci、2019年)、『アニメーション文化 55のキーワード』(共著、ミネルヴァ書房、2019年)、「「祈りのように」響く映画：岡本忠成『南無一病息災』(1973年)」(論文、『病とその表象・日仏シンポジウム論文集』[早稲田大学、2024年3月]所収)、宮崎駿著『風の帰る場所』(仏語翻訳、imho、近刊) などがある。



【モデレーター】

レギーネ・マティアス (Regine MATHIAS)

- ・1977年、ウィーン大学にて日本研究の博士号取得。ボン大学講師を経てデュイスブルクおよびボーフム・ルール大学日本史教授。2016年よりルール大学名誉教授、現CEEJA日本研究部門副所長。
- ・専門分野:日本社会経済史; 日本都市文化の歴史; 日本鉱業史、特に鉱山の絵巻物の研究。
- ・主な出版物:
 - “The Nation at work: gendered working patterns in the Taishō- and Shōwa periods” , in: Andrea Germer et. al (eds), Gender, nation and state in modern Japan, London and New York: Routledge 2014, S. 141-163.
 - “Regional identity in the making? Industrial heritage and regional identity in the coal region of Northern Kyūshū in Japan” , in C. Wicke, S. Berger, J. Golombek (eds), Industrial Heritage and Regional Identities, London and New York; Abington: Routledge 2018, pp. 136-167.
 - “Gold und Silber für den Shōgun. Japanische Bergleute: zum Profil einer sozialen Randgruppe in der Edo-Zeit “ (「将軍家の金銀を支えた人々:江戸時代の社会的弱者集団としての日本人鉱山労働者」 , in Stephan Köhn & Chantal Weber (eds), Outcasts in Japans Vormoderne: Mechanismen der Segregation in der Edo-Zeit, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag 2019, 177-200.
 - “The Development of Mining Schools in Japan” , in Erich Pauer and Regine Mathias (eds), Accessing Technical Education in Modern Japan, Folkstone: Renaissance Books, 2022, pp. 303-346. 他



【コメンテーター】

夏目 房之介 (NATSUME Fusanosuke)

- ・ 1950年東京生。青山学院大学卒。出版社勤務後、マンガ、エッセイ、マンガ評論などを手がける。78～92年、週刊朝日に「ナンデモロジー學問」他を連載。2008～21年、学習院大学大学院身体表象文化学専攻教授。
- ・ マンガ論の著書に「手塚治虫はどこにいる」(92年、筑摩書房)、「手塚治虫の冒険」(95年、同上)、「マンガの読み方」(共著、同年、宝島社)「マンガはなぜ面白いのか」(97年、NHK出版)、「マンガ／世界／戦略」(2001年、小学館)、「マンガに人生を学んで何が悪い」(2006年、ランダムハウス講談社)、「マンガ学入門」(共著、2009年、ミネルヴァ書房) 他多数。
- ・ 96年よりNHK衛星「BSマンガ夜話」レギュラー出演。同年NHK人間大学「マンガはなぜ面白いのか」テレビ講義。マンガ批評への貢献により朝日新聞社手塚治虫文化賞特別賞受賞。同年、国際交流基金主催「現代日本短編マンガ展」を企画構成、のち欧州各地を巡回。台湾、韓国、タイ、インドネシアなどのマンガ事情を調査、仏、独、英、米、香港など世界各地で講演。